



ホームカミング

「ロータリーとの出会いを通しての成長」

ジャンチブ ガルバドラハ氏

モンゴルのごく普通の教師であった私が日本留学を通して、いかに生まれ変わったかについて紹介させていただきます。来日前の私は、モンゴルのあらゆる教育セクターに勤務する機会をいただいた若手教員でした。学生結婚をしたため比較的的人生経験もありました。

1995年に日本留学の際には妻と娘4人という日本では珍しい大家族を連れて多くの日本人を驚かせました。当時、娘たちの2人が中学生、もう2人が小学生でした。ですから、家族の生活と娘たちの学費等をまかなうために二重三重のアルバイトをしながら勉強する「苦学生」となりました。

当時を振り返ると、妻とともに大変苦労したことが思い浮かびます。僕の一日は朝5時から新聞配達で始まるが、大学の授業にももちろん出席し、夕方になると17時から運送屋さんで荷物を積む仕事、更に20時から居酒屋さんでウェイターとして働きました。寝るのが夜中の1時だったから、周りからは「体を壊すなよ」と注意を受けるほどでした。妻も家事や育児をこなし、買い物や食事の支度をしてから深夜に中華料理屋さんで皿洗いのアルバイトのため、帰宅が深夜3時になる日がほとんどでした。夫婦ですれ違って会えない日々がしばらく続きました。

そんな私に晴れの日が訪れた。修士2年でロータリー米山記念奨学金をいただくことになって感極まりました。そのご恩は生涯忘れません。そして、そのご恩に感謝する気持ちから、胸の中に温めていた「母国に学校を創りたい」という夢が自然と花開きました。奨学金授与のときに世話クラブの例会において、「国造りは人創りにかかっている。人創りには質の高い教育が必要だ。そのために母国で学校を創りたい」と発表しました。山形北ロータリークラブの皆さんは温かい言葉をたくさん投げかけて下さり、応援する旨伝えていました。このように私を信じ、背中を押してくださり、実際に応援して下さったことはとても

ありがたく今でも夢のように感じられます。

そして、山形北クラブの皆さんや第2800地区のロータリアンの方々、一般市民の皆さんが学校創りを応援する運動を開始しました。山形北クラブ・パストガバナーの高橋文夫さんが会長を、当時の私のカウンセラーで日本のお父さんでもある酒巻満さんが副会長を勤め、「柱一本の会」という運動を繰り広げました。私が予想さえできなかった多くの方のご厚情(こうじょう)とご活躍により、2000年10月5日にモンゴル初の日本式高校が誕生したのです。

19年前に私を応援して下さった山形北クラブのロータリアンの皆さんは、一人の奨学生を応援してあげようというご厚情があったと思うのですが、実は皆さんの支援は、多くの若者の未来を切り開いた出来事でもありました。というのは、2000年に開校した学校の卒業生は現在1700名に上り、そのうち372名が日本の大学や高専・専門学校に入学を果たし、中でも、東大に16名、京大に3名、阪大に10名、千葉大に15名、山大に9名がそれぞれ留学できました。また、アメリカに63名、中国に33名、ロシアに14名などと留学していますが、日本留学者数は圧倒的に多く、桁が違います。その中には東京大学で博士号を獲得した者、一橋大学の総代になった者がいれば、原子力とかスーパーコンピューターの研究したり、環境経済学を学ぶ優れた卒業生達もいます。総理大臣、国連事務総長になりたい、オスカーとノーベル賞を受賞したいとすばらしい夢も持っています。

米山記念奨学財団は、奨学事業として、奨学生が帰国後に国のリーダーになれるよう教育・育成する使命を果たすとご提言されています。その提言こそが20年前の私の胸に灼けるように刻まれた。母国の発展に貢献することでこそ、奨学生として選んでくださったご恩をお返しできると考えました。国の社会発展に寄与する具体的な手段として学校を創ったわけです。また、米山学友に

は母国と国際社会、中でも母国と日本との懸け橋になるという高い志が共通していると思います。私は、国際舞台に活躍できる人材を育成することで、国際社会及び日本との間で生きた架け橋を創造できることを目指しています。

国の発展に寄与し、国際社会との懸け橋となるリーダーの育成のために本校は、日本の進学高校をモデルにしているが、受験勉強を重視するよりも生徒の人格育成をより重視しています。すなわち、科学的な知識を蓄積してもらう他、高い志を持って学ぶ姿勢を備え付け、知識を活用する能力や生きる力を習得させ、健康で丈夫な体を持つ、コミュニケーション能力に長けた人間として心・知・体をバランスよく伸ばせるような教育プログラムを実践しています。

2000年に高校を設立して以来、中学校や小学校、高等専門学校、工科大学、子ども園を私と同じ夢のある仲間との協力のもと設立することができました。その、ひとつの組織として新モンゴル学園が作られたわけであります。学園や各教育機関の取締役はみんな日本で学力をつけた者ばかりです。私達一同、皆様への恩返しをこれからも倍々返しにできるように尽力していきたい所存です。



テープカット



柱一本の会



zahirluud

私自身、2011年に母国のフレロータリークラブに入会しました。2年前に会長も務めさせて頂きました。世界中のロータリアンと交流する機会がさらに広がりました。未だに母クラブとの絆が続いており、今年の2月14日に山形北クラブ50周年記念事業の一つとして新モンゴル高専において機械実験室を新しく設置しました。

モンゴルに帰国した学友らと力合わせて2014年に「モンゴル米山学友会」も立ち上げました。会員が70名近くいる活況(かっきょう)な学友会です。来年2019年7月27日に「学友会の世界大会inモンゴル」を開催する企画に皆様をお待ちしております。

このように「親」であるロータリアンと「子」である学友とのつながりが切れることなく、ますます強靱になっていくことができるのは、世界でも唯一「米山学友会」、「米山奨学記念財団」だけだと思います。これからも引き続きよろしくお願いたします。

私事ですが、去年、秋叙勲で日本国天皇より「旭日小綬章」を頂きました。今まで以上に頑張らなければならなくなりました。今後もっと全力を尽くして行きたいと存じております。